

2026年3月期 第1四半期決算説明資料

2025年8月1日

株式会社 **ダイセル**

- (1) サマリー
- (2) 2026年3月期 第1四半期業績
- (3) セグメント別 売上高・営業利益
- (4) セグメント別 事業概況（対前年同期）
- (5) セグメント別 事業概況（上期予想進捗）
- (6) 連結貸借対照表
- (7) Appendix

2026年3月期 1Q実績（対前年同期比）

売上高	1,393億円	(△4.3%)
営業利益	130億円	(△25.3%)
EBITDA	228億円	(△15.3%)
親会社に帰属する 四半期純利益	96億円	(△40.6%)

為替レート USD/JPY : 145円
(前年同期 USD/JPY : 156円)

売上高、営業利益ともに為替の影響が大きく、減収減益

- 売上高は、グローバル自動車生産台数が微減となった中、中国を中心にセイフティ事業のエアバッグ用インフレータの販売は増加したものの、マテリアル事業のアセテート・トウが顧客の在庫調整の影響により減少したことや、エンジニアリングプラスチック事業で2024年7月に樹脂コンパウンド事業を持分法適用会社へ移管したことなどにより減収。
- 営業利益は、セイフティ事業における米国拠点の生産性改善が貢献するものの、マテリアル事業での前期からの繰越在庫影響や、エンジニアリングプラスチックの減価償却費の増加等もあり減益。
- 親会社に帰属する四半期純利益は、前年同期に樹脂コンパウンド事業移管に伴う関係会社株式売却益があったこともあり、減益。

2026年3月期 対上期予想進捗率

	上期予想※	上期予想進捗率
売上高	2,900億円	(48.0%)
営業利益	225億円	(58.0%)
EBITDA	430億円	(53.1%)

為替レート（想定）USD/JPY : 140円

1Q売上高の進捗は上期予想並み、営業利益は期ズレなどにより上振れ

- マテリアル事業のアセテート・トウの販売時期の前倒しや為替の影響があったものの、エンジニアリングプラスチック事業のPOMの販売数量が中国の価格競争の影響により計画を下回ったこと等により、売上高は計画並み。
- 営業利益は、セイフティ事業におけるコストダウン効果や為替の影響、1Qに織り込んでいた研究開発費などの経費計上が2Qへ後ろ倒しとなる影響により、上振れ。
- 2Qは、半導体市場が堅調に推移するものの、自動車生産計画の下振れや、1Qからの期ズレによる経費計上などもあり、1Qから2Qでは減益見通し。
- 米国関税影響について：セイフティ事業において上期から影響があるが、価格転嫁を3Q以降に計画。エンジニアリングプラスチック事業のPOMは、諸工業製品などの中国から米国への輸出がやや落ち込んでおり中国市場での需要は弱含み。中国系サプライヤーの供給過多もあり価格は下落傾向。中国における販売価格対応を開始し、販売数量維持に努める。

2026年3月期 第1四半期業績



	2025/3 1 Q実績	2026/3 1 Q実績	対前年同期		上期予想※	進捗率
			増減	増減率		
売上高	1,456	1,393	△63	△4.3%	2,900	48.0%
営業利益	175	130	△44	△25.3%	225	58.0%
経常利益	182	123	△58	△32.1%	235	52.5%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	162	96	△66	△40.6%	250	38.5%
為替レート USD/JPY	156	145				
EBITDA	270	228	△41	△15.3%	430	53.1 %

※2025年5月13日に発表した数値です。

セグメント別 売上高・営業利益（対 前年同期 増減・要因分析）

	売上高							売上高
	2025/3 1Q実績	2026/3 1Q実績	増減	増減率	分析			上期予想※ 進捗率
					数量差	単価差	単価差の内 為替影響	
メディカル・ヘルスケア	35	38	+3	+9.9%	+6	△2	△3	51.1%
スマート	103	95	△9	△8.4%	△6	△3	△4	47.3%
セイフティ	233	245	+12	+5.0%	+25	△13	△13	48.9%
マテリアル	445	403	△42	△9.4%	△8	△33	△25	48.6%
エンジニアリングプラスチック	627	599	△28	△4.4%	△27	△1	△29	47.2%
その他事業	13	13	△0	△0.6%	△0	-	-	50.4%
合 計	1,456	1,393	△63	△4.3%	△10	△53	△74	48.0%

	営業利益								営業利益
	2025/3 1Q実績	2026/3 1Q実績	増減	増減率	分析				上期予想※ 進捗率
					数量影響	価格影響	その他	営業利益の内 為替影響	
メディカル・ヘルスケア	1	2	+1	+72.3%	+4	△1	△2	△1	-
スマート	5	2	△3	△57.5%	△1	+2	△4	△3	30.4%
セイフティ	△0	16	+17	-	+12	△1	+6	△1	55.4%
マテリアル	91	44	△47	△51.5%	+10	△24	△33	△12	56.4%
エンジニアリングプラスチック	77	65	△12	△15.4%	△10	+15	△17	△5	59.4%
その他事業	1	1	+0	+14.7%	+0	-	-	-	41.7%
合 計	175	130	△44	△25.3%	+15	△9	△50	△22	58.0%

※2025年5月13日に発表した数値です。

セグメント別 事業概況（対前年同期）

■ メディカル・ヘルスケア

単位：億円	2025/3 1 Q実績	2026/3 1 Q実績	対前年同期	
			増減	増減率
売 上 高	35	38	+3	+9.9%
営 業 利 益	1	2	+1	+72.3%

営業利益（対前年同期）		
分析	増減	主な増減要因
数量影響	+4	ライフサイエンス、ヘルスケア共に販売数量が増加
価格影響	△1	為替影響
その他	△2	研究開発費や販売数量増加に伴う経費の増加

【対前年同期】 増収・増益

ライフサイエンス 増収（+2.9%）

主に米国や中国でのキラルカラム販売は低調なものの、インドでのキラルカラムの販売や分析・合成サービスが好調なことにより増収。

ヘルスケア 増収（+31.3%）

国内外における化粧品市場や健康食品市場は堅調に推移。主にサプリメント向け販売が好調であり、中でもエクオールが大きく伸長したこともあり増収。

セグメント別 事業概況（対前年同期）

■スマート

単位：億円	2025/3 1Q実績	2026/3 1Q実績	対前年同期	
			増減	増減率
売上高	103	95	△9	△8.4%
営業利益	5	2	△3	△57.5%

営業利益（対前年同期）		
分析	増減	主な増減要因
数量影響	△1	
価格影響	+2	原料価格の低下
その他	△4	研究開発費や全社共通費配賦額の増加

【対前年同期】 減収・減益

ファンクショナルプロダクツ 減収（△3.7%）

カプロラクトン誘導体は、塗料コーティングおよびウレタン市場が引き続き低調に推移したことや中国における価格競争、為替の影響などにより減収。

脂環式エポキシは、電子基板用途等の電子材料市場の需要の回復や、主に欧米市場でのシェア拡大により販売数量は増加したものの、為替の影響により微増収。

アドバンステクノロジー 減収（△12.0%）

半導体市場は堅調に推移しており、電子材料向け溶剤は横ばい。フォトレジスト材料は拡販の成果があるものの、顧客の生産時期のズレ等により減収。機能フィルムは、電池向け離型フィルムの需要が徐々に回復しているが、中国EVが低調なことにより車載ディスプレイフィルム用途が減少し減収。

セグメント別 事業概況（対前年同期）

■ セイフティ

単位：億円	2025/3 1Q実績	2026/3 1Q実績	対前年同期	
			増減	増減率
売 上 高	233	245	+12	+5.0%
営 業 利 益	△0	16	+17	-

営業利益（対前年同期）		
分析	増減	主な増減要因
数量影響	+12	インフレータ販売数量の増加、北米生産拠点の生産性改善
価格影響	△1	為替影響
その他	+6	北米生産拠点の生産性改善

【対前年同期】 増収・増益

モビリティ 増収（+6.7%）

前年同期では日系自動車認証不正問題の影響等があったが、当第1四半期においては、中国市場における政府の景気刺激策による中国自動車メーカーの生産回復や、インドにおいて新規ラインを増設し拡販したことなどにより、インフレータ販売数量は増加し増収。

インダストリー 減収（△14.7%）

2025年3月期後半から中国向けの新規ビジネスを受注し拡販するも、外販イニシエータ（点火器）の販売減少を受け、減収。

セグメント別 事業概況（対前年同期）

■ マテリアル

単位：億円	2025/3 1 Q実績	2026/3 1 Q実績	対前年同期	
			増減	増減率
売上高	445	403	△42	△9.4%
営業利益	91	44	△47	△51.5%

営業利益（対前年同期）		
分析	増減	主な増減要因
数量影響	+10	(+) COプラントトラブル影響の解消 (△) アセテート・トウの販売数量減少
価格影響	△24	酢酸市況低下、為替影響
その他	△33	前期のCOプラントトラブルによる繰越在庫影響

【対前年同期】 減収・減益

アセチル 減収（△14.4%）

アセテート・トウは、需要は堅調なものの、前期4Qでの出荷増に伴い、東南アジア、中近東を中心に在庫調整による販売数量の減少、また為替の影響により減収。

ケミカル 増収（+4.8%）

酢酸セルロースは、液晶パネル市場における中国の補助金政策や米国追加関税前の駆け込み需要があり、液晶ディスプレイ用途は増加したものの、中国市場における繊維用途の需要が減少し、減収。

1, 3BGは国内及び海外の化粧品市場は堅調に推移し、海外への拡販活動等により販売数量は増加し増収。

セグメント別 事業概況（対前年同期）

■ エンジニアリングプラスチック

単位：億円	2025/3 1 Q実績	2026/3 1 Q実績	対前年同期	
			増減	増減率
売上高	627	599	△28	△4.4%
営業利益	77	65	△12	△15.4%

営業利益（対前年同期）		
分析	増減	主な増減要因
数量影響	△10	（△）樹脂コンパウンド事業移管影響、POM販売数量の減少 （+）前年同期のCOCプラントトラブル影響の解消
価格影響	+15	原料価格の低下、為替影響
その他	△17	減価償却費の増加（△10）、COCなどの繰越在庫の影響

【対前年同期】 減収・減益

ポリプラスチック 微減収（△0.4%）

中国における中国自動車メーカーは好調なものの、日系自動車メーカーは低調なこともありグローバル自動車生産台数は微減。LCPの販売などは好調だったものの、為替の影響やPOMの販売数量の減少などにより微減収。

- ・ POMは、価格競争などにより諸工業向けが減少し、販売数量は減少。
- ・ PBTの販売数量は前年同期並み。
- ・ PPSは、自動車向けに加え、AIサーバー向けが好調なことにより販売数量は増加。
- ・ LCPは、AIサーバー向けが好調なことや、中国での買い替え補助金施策等によりスマートフォンやパソコンなどの電子デバイス向けが大幅に増加し、販売数量は増加。2025年2月に台湾にて稼働した増産プラントは2025年5月にフル稼働。

ダイセルミライズ 減収（△33.4%）

2024年7月に持分法適用会社ノバセルへ樹脂コンパウンド事業を移管した影響により減収。

セグメント別 事業概況（上期予想進捗）

単位：億円		2026/3 1Q実績	上期予想	上期予想※ 進捗率	1 Q対予想の状況
メディカル・ヘルスケア	売上高	38	75	51.1%	1 Q売上高上振れ・営業利益上振れ - ライフサイエンス事業では、1 Qのキラルカラム販売は計画より微増だったが、受託分取サービスが低調。2 Qにかけても大きな需要の変化はなく計画並みに推移。 - ヘルスケア事業では化粧品原料・健康食品素材が好調であり、特に健康食品素材でのエクオール販売が好調。引き続き2 Qも好調の見込み。
	営業利益	2	△2	-	
スマート	売上高	95	200	47.3%	1 Q売上高下振れ・営業利益上振れ - カプロラクトン誘導体は計画並み、脂環式エポキシは拡販により計画よりも上振れ。 - 電子材料向け溶剤は、国内半導体市場は堅調なものの、液晶向け需要や海外での欧州自動車塗料向け等が計画を下回った。機能フィルムは、想定よりも中国EV需要が伸びず、新規開発品の販売開始遅延等により下振れ。 2 Qにかけても、半導体市場向けの需要は堅調に推移する見込みであるが、液晶向け溶剤や車載向け機能フィルム需要などは弱含みが続き、計画より下振れを見込む。
	営業利益	2	7	30.4%	
セイフティ	売上高	245	500	48.9%	1 Q売上高下振れ・営業利益上振れ 1 Qでは、日本市場での一部日系自動車メーカーの販売不振の影響や、中国市場での自動車販売が想定よりも伸長しなかったことに加え、米国追加関税の影響も一部受けたことにより売上高は下振れ。営業利益は、計画以上のコストダウンや為替の影響等により上振れ。 2 Qにかけては、引き続き自動車生産台数の弱含みが続き、売上高は計画より下振れを見込む。
	営業利益	16	29	55.4%	
マテリアル	売上高	403	830	48.6%	1 Q売上高上振れ・営業利益上振れ 1 Qでは、2 Qに織り込んでいたアセテート・トウ販売が前倒しになったことや為替が円安に推移したこと等により上振れ。 2 Qにかけては、アセテート・トウの前倒し出荷等により減少を見込む。
	営業利益	44	78	56.4%	
エンジニアリングプラスチック	売上高	599	1,270	47.2%	1 Q売上高下振れ・営業利益上振れ 1 Qでは、中国から米国への輸出の落ち込みなどにより中国市場でのPOMの販売が減少し、売上は下振れたが、営業利益は、為替影響などにより上振れ。 2 Qでは、LCPは引き続きAIサーバー向けやPC等の電子デバイス需要の好調が続く見込み。POMは、市況を注視し価格管理を行い拡販を図るが、計画よりも下振れを見込む。
	営業利益	65	110	59.4%	

※2025年5月13日に発表した数値です。

連結貸借対照表

単位：億円		2025年 3月末	2025年 6月末	増減
流動資産		3,956	3,978	+21
	現預金及び預金	651	688	+37
	受取手形及び売掛金	1,139	1,083	△ 56
	棚卸資産	1,779	1,823	+44
	その他	387	383	△4
固定資産		4,182	4,421	+239
	有形固定資産	3,194	3,359	+165
	無形固定資産	106	107	+1
	投資その他資産	881	955	+73
資産合計		8,138	8,399	+260
負債		4,388	4,617	+229
	有利子負債	2,861	3,088	+227
	その他	1,527	1,529	+2
純資産		3,750	3,781	+31
負債純資産 合計		8,138	8,399	+260

- 棚卸資産増加は、主にポリプラスチックスでのPOM在庫が増加。
- 有形固定資産増加の主な要因は、ポリプラスチックスグループのPOM・LCP・COC製造能力増強投資。
- 投資その他資産は、主に投資有価証券の時価上昇により増加。
- 有利子負債の増加は、主にポリプラスチックスのドイツや中国での増産投資に関連する長期借入金の増加。

Appendix

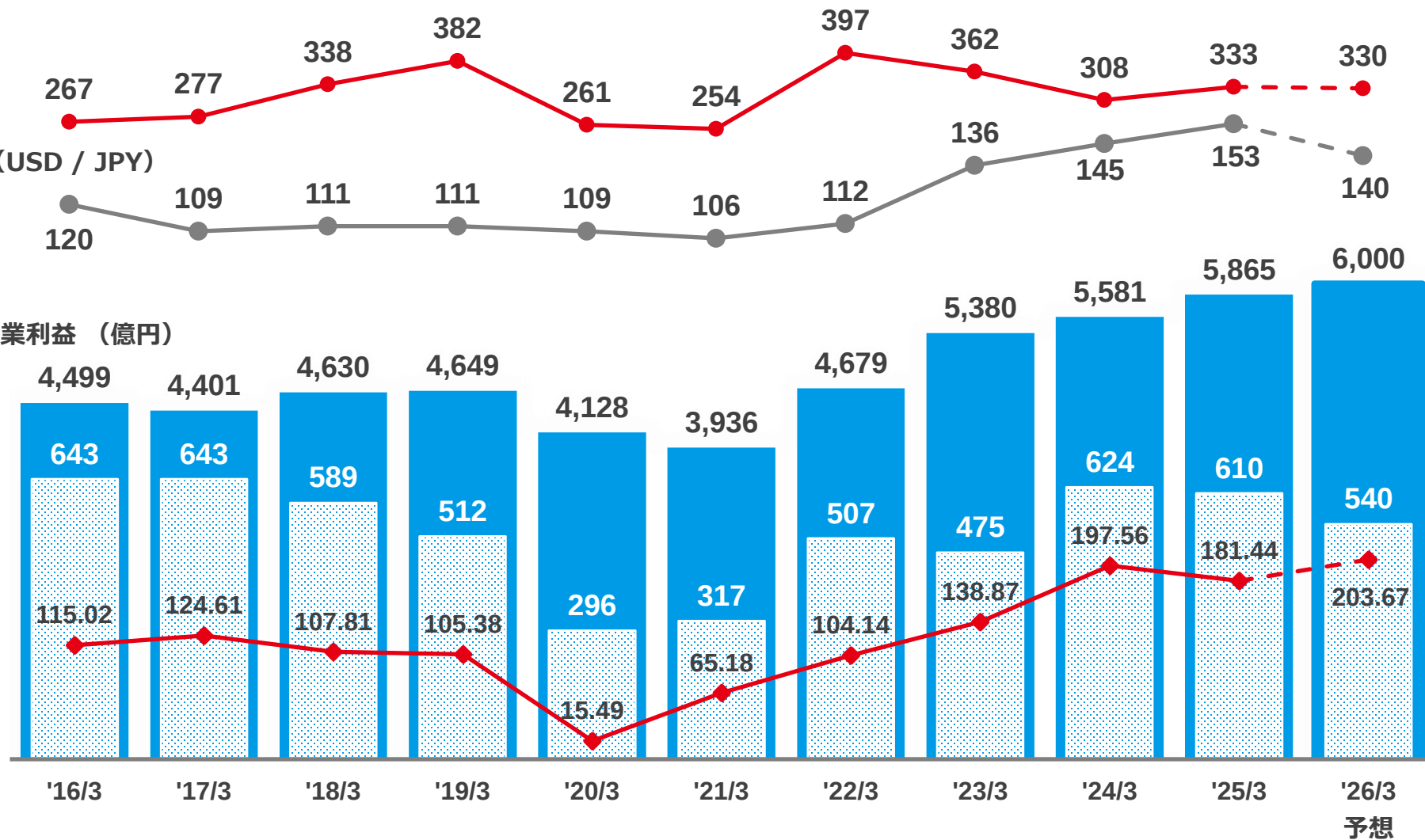
売上高・営業利益・EPSの推移

● メタノールアジアスポット価格 (USD / ton)

● 為替レート (USD / JPY)

■ 売上高・□ 営業利益 (億円)

◆ EPS (円)



「総還元性向40%以上」「DOE4%以上」との方針に則り安定的な株主還元を維持

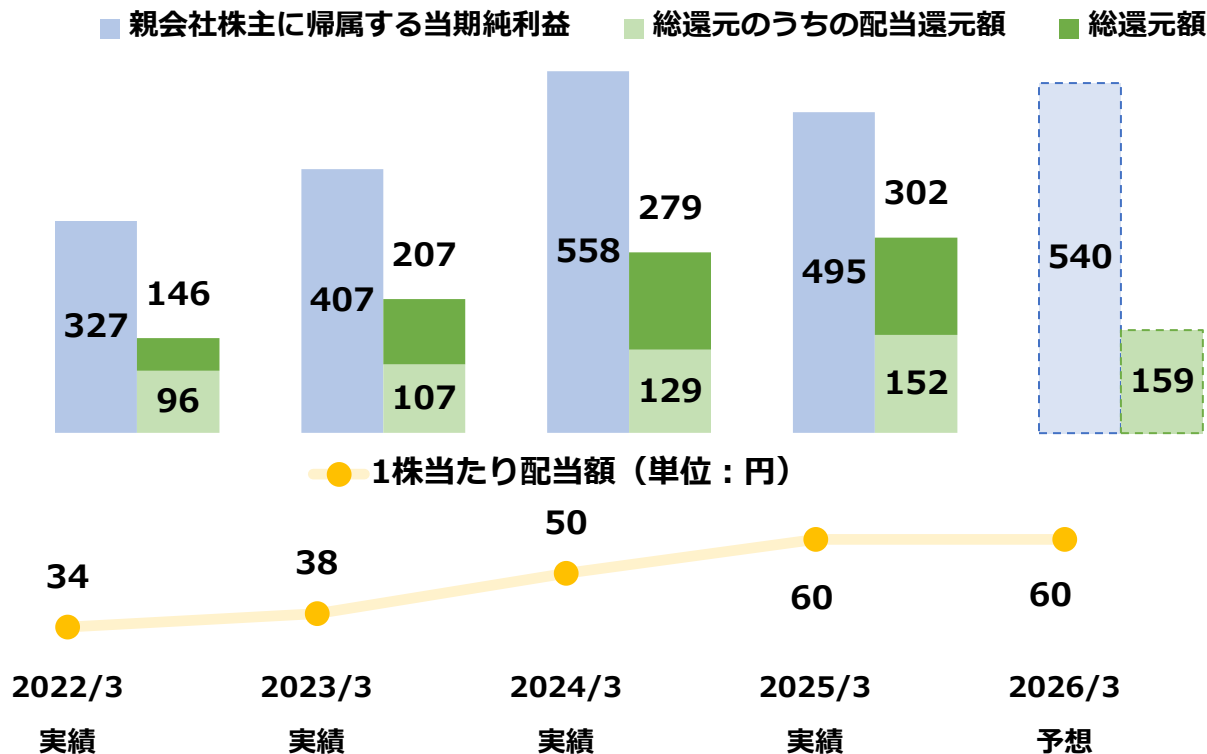
2025年3月期

- ・ 期末配当計画 30円／株
(年間配当60円／株 前期から10円増配)
- ・ 約**150億円** (1,098万株) の**自己株式を取得**
(取得期間：2024年11月～2025年2月)

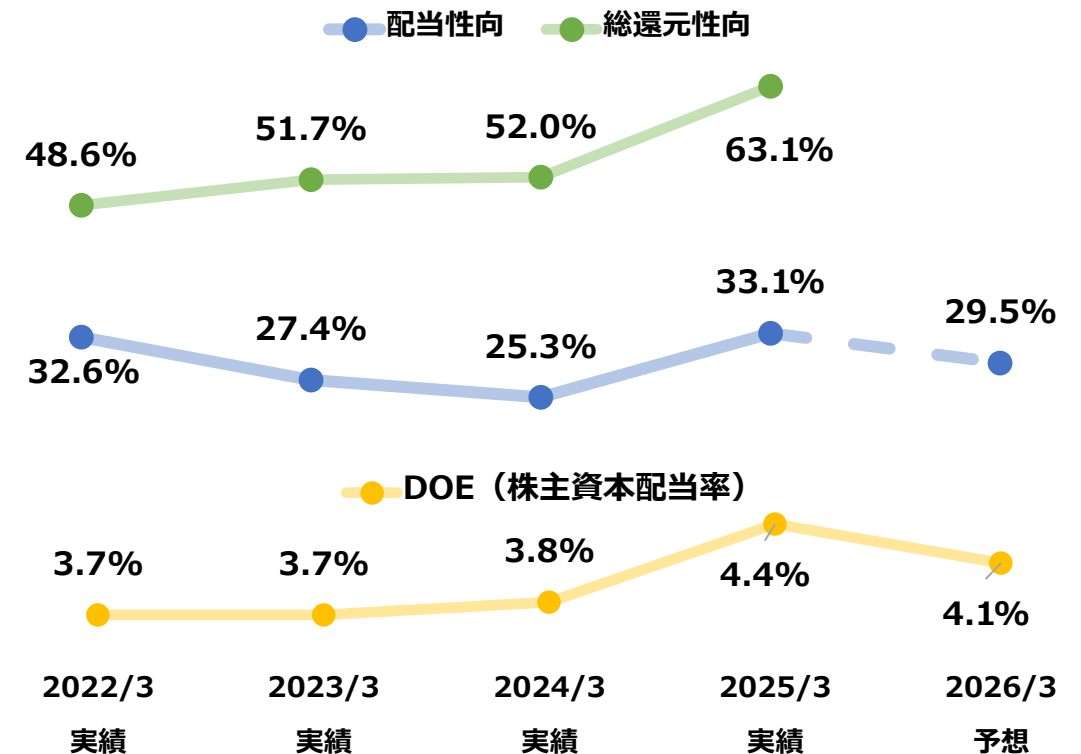
2026年3月期

- ・ 中間配当計画 30円／株
- ・ 期末配当計画 30円／株
(年間配当60円／株 前期と同額)
- ・ **1,000万株の自己株式を消却 (2025年5月)**

親会社株主に帰属する当期純利益および株主還元額推移 (単位：億円)



株主還元指標推移



セグメント別 売上高・営業利益（四半期推移）

単位：億円	売上高				
	2025/3				2026/3
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
メディカル・ヘルスケア	35	37	37	36	38
スマート	103	93	89	88	95
セイフティ	233	238	257	248	245
マテリアル	445	440	407	542	403
エンジニアリングプラスチック	627	618	623	612	599
その他事業	13	16	16	14	13
合 計	1,456	1,441	1,429	1,540	1,393

単位：億円	営業利益				
	2025/3				2026/3
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
メディカル・ヘルスケア	1	1	2	△1	2
スマート	5	△3	△8	△2	2
セイフティ	△0	14	17	9	16
マテリアル	91	53	48	105	44
エンジニアリングプラスチック	77	75	54	64	65
その他事業	1	2	4	3	1
合 計	175	141	116	178	130

2026年3月期 業績予想

		2025/3 実績			2026/3 予想※			増減
		上期実績	下期実績	年間	上期予想	下期予想	年間	
単位：億円								
	メディカル・ヘルスケア	72	73	144	75	80	155	+11
	スマート	196	177	373	200	205	405	+32
	セイフティ	471	506	976	500	510	1,010	+34
	マテリアル	885	949	1,834	830	985	1,815	△19
	エンジニアリングプラスチック	1,245	1,234	2,480	1,270	1,290	2,560	+80
	その他事業	28	29	58	25	30	55	△3
売上高		2,897	2,968	5,865	2,900	3,100	6,000	+135
	メディカル・ヘルスケア	2	1	3	△2	5	3	+0
	スマート	2	△10	△8	7	7	14	+22
	セイフティ	13	26	39	29	35	64	+25
	マテリアル	143	153	296	78	152	230	△66
	エンジニアリングプラスチック	152	118	270	110	111	221	△49
	その他事業	3	6	10	3	5	8	△2
営業利益		316	294	610	225	315	540	△70
経常利益		307	316	623	235	325	560	△63
親会社株主に帰属する当期純利益		321	174	495	250	290	540	+45
(参考) 為替レート USD/JPY		153	152	153	140	140	140	

※2025年5月13日に発表した数値です。

為替レート・主要原燃料価格動向

		2025/3 実績		2026/3 計画	2026/3 実績
		上期	下期	通期	1Q
為替レート (USD/JPY)		153	152	140	145
原料	メタノール アジアスポット価格 (USD/ton)	332	334	330	312
	原油 ドバイ (USD/bbl)	82	75	75	67
	国産ナフサ (円/kl)	77,950	74,000	67,000	66,000*

*2025年8月1日時点の予想

セグメント	サブセグメント	主な製品
メディカル・ヘルスケア	ライフサイエンス	クロマトグラフィー用カラム・充填剤（キラル・アキラル）、キラル試薬、受託分取・精製サービス、分析サービス、合成サービス、遺伝子解析研究試薬、新規投与デバイス
	ヘルスケア	化粧品原料（ポリグリセリン誘導体、酢酸セルロース真球微粒子（BELLOCEA®）など）、機能性食品素材（エクオール、こんにゃくセラミド、ウロリチン、ラクトビオン酸など）
スマート	ファンクショナルプロダクツ	脂環式エポキシ、カプロラクトン誘導体、オプティカルレンズ
	アドバンステクノロジー	フォトレジスト材料、電子材料向け溶剤、機能フィルム
セイフティ	モビリティ	自動車エアバッグ用インフレーター
	インダストリー	電流遮断器、シートベルトプリテンショナー用ガス発生器（PGG）
マテリアル	アセチル	酢酸、無水酢酸、アセテート・トウ
	ケミカル	液晶保護フィルム用酢酸セルロース（TAC）、酢酸セルロース、1,3-BG、酢酸エチル、ケテン誘導体、エチルアミン
エンジニアリングプラスチック	ポリプラスチック社	ポリアセタール（POM）、ポリブチレン・テレフタレート（PBT）、ポリフェニレン・サルファイド（PPS）、液晶ポリマー（LCP）、環状オレフィン・コポリマー（COC）
	ダイセルミライズ社	水溶性高分子（CMC）、包装用バリアフィルム、AS樹脂

- 本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料（業績計画を含む）は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものでありますが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。
- ご使用に際しては、ご自身の判断にてお願いいたします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。
 - ・ 本資料の著作権は株式会社ダイセルに帰属します。
 - ・ いかなる理由によっても、当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。